

「山形市初市」の概要

■ 初市の起源

初市は最上義光公(1546～1614)治世の江戸時代初期から続く伝統行事です。当時、山形には三日町、五日町、七日町、十日町など、定期の市が立つ市日町がありましたが、それら市の中心として十日町に市神(いちがみ)が祭られ、毎年1月10日に、市神祭りとして十日町～七日にかけて多くの露店が立ち並び、縁起物をはじめいろいろな物を並べて売り立てるようになりました。



■ 平成31年1月10日(木)

会 場：十日町角(ホルキヤッスル)～七日町(ナナビーンズ) 国道112号
及びナナビーンズ 北側の東西の道路 <約1.4キロメートル>
(十日町・本町・七日町・旭銀座・一番組の各商店街沿道)
人出予想：20万人

営業時間：午前10:00～午後5:00
(交通規制：午前9:30～午後6:30)

■ 平成30年度初市 出店数 207コマ (復興うまいもの広場3コマ含む)

■ 販売物

縁起物(初飴、かぶ、白^{しら}ひげ、団^{だんご}子木、船せんべい、だるまなど)
木工品(まな板、臼、杵、はしごなど)…山形市切畑地区
野菜、穀類、一般露店



■ 縁起物

初飴 山形特産の紅花が豊作で、花商いがうまくいくようにとの願いから。
(昔は、盛飴もしくは旗飴。紅餅を花むしろの上に並べて乾燥することから、
白紙に点々と水飴を盛った盛飴(旗飴)がもとになっています)

かぶ 蕪 江戸時代、株は同業組合の一員としての地位や特権を表す言葉でしたが、初市の蕪は、その株に掛けて商売繁盛や身代が大きくなるようにとの願いから。

白ヒゲ 白いひげのように、豊かな老人になるまで長生きできるようにとの願いから。
(野蒜の一種)

だんご木 豊作、実がたくさんなるようにとの願いから。(木：みず木)



※縁起物を扱う店 約20店 木工品 約10店

■「復興うまいもの広場」

【ほっとなる広場】

宮城県内(塩釜)の出店者3コマ

営業時間：午前10:00～午後5:00

※販売品目 塩辛・塩わかめ・干物・たらこ・
明太子・水餃子など



■初市イベント

【AZ七日町前イベント】

餅つき踊り 11時30分(予定) 四方山会による餅つき踊り
※餅の配布等はありません

お神楽、お神酒振舞い 11時頃から(予定) 無くなり次第終了
丸餅の無料振る舞い 12時00分(予定)より、無くなり次第終了
納豆汁の無料振る舞い 12時30分(予定)より、無くなり次第終了
(各々300食予定)

【山形グランドホテル】

『GOGO初市ぬいぐるみ劇』

日本一の芋煮会マスコット 芋煮マン 里味ちゃん

動物ぬいぐるみキャラクターによる演劇

初あめ・あめ引き実演コーナー 初あめプレゼント

幼稚園児対象 2回公演 入場無料

11:00開演 (開場10:45) 13:30開演 (開場13:00) (予定)

【十日町角イベント】

『初市“しあわせ”手ぬぐい～ぬりえコーナー～』

オリジナル手ぬぐいのだんご木のイラストに

ぬりえをします。「今年一年をしあわせに」との願いを込めて、初市“しあわせ”
手ぬぐいをつくりましょう。(参加無料)

午前の部：10:30～(先着150枚)/午後の部：13:30～(先着150枚)

※ただし、ご家族の場合は2枚まで又は、子供さんの人数分をお願いいたします。無くなり次第終了



※イベント内容・時間等は現在の予定ですので、変更になる場合があります。予めご了承ください。



**山形市初市では、会場内及び交通規制内での
ドローンの使用を禁止しております。**